



消防大学校だより

新任消防長・学校長科における教育訓練

消防大学校では、消防吏員として消防業務に従事した経験のない新任の消防長・消防学校長に対し、その職に必要な知識及び能力を総合的に修得させることを目的に「新任消防長・学校長科」を設置しています。

令和4年度の「新任消防長・学校長科（第32期）」は、5月10日（火）～5月20日（金）の11日間に及ぶ全寮制での集合研修を受け、36名が無事卒業しました。

研修では、内藤消防庁長官を始め、消防庁幹部による最新の消防行政の動向に関する講義や清水全国消防長会会長による講話、各人が抱える課題等についての討議、及び消防人として必須である消防訓練礼式等を受講し、消防組織のトップとしての職責を認識するとともに、消防職の心構えについて積極的に学びました。

また、実科では実火災体験型訓練（ホットトレーニング）の見学や、防火衣及び空気呼吸器の装着体験を行い、消防職員の過酷な環境での現場活動の実態を理解しました。大規模地震時における常備消防と消防団との連携を想定した指揮シミュレーション訓練では、指揮者の状況判断の難しさや、各機関との連携の重要性について理解を深めました。さらに、危機管理広報では、組織内で不祥事が起きた際の報道対応の実習を行い、危機事案発生時の適切な広報技術の向上を図ることができました。

研修を終えた学生からは、「座学や訓練等を通じて消防に関する様々な知識や消防長・学校長としての心構えを学ぶとともに、消防庁長官など普段聞くことのできない方から貴重なお話を聞いたこと、また、全国の消防長・学校長との意見交換、情報交換等により親睦を深めることができ大変有意義な研修でした。」「所属の消防職員とようやく同じ土俵に立つことができる感じです。戻ってからの意思疎通、交流がとても楽しみになりました。」「新任初期に、豊富な実績をもつ多彩な講師陣による研修機会を与えていただき感謝申し上げます。また、懇親を深める中で人との繋がりができ、大変有意義な研修となりました。やはり、安心・安全なまちづくりは、人づくりだと実感しました。」など、教育科目全般及び学生相互の交流を含め、有益であったと

評価する意見が多数寄せられました。

今後は、一般行政職員の幹部としての経験や知識に加え、「新任消防長・学校長科」で習得した知識等をいかして、各組織のトップとして住民の安全・安心に貢献し、大いに活躍されることを期待いたします。



長官講話（消防庁KKCにて長官を囲んで記念撮影）



訓練礼式



指揮シミュレーション訓練

危機管理・防災教育科 危機管理・国民保護 コースにおける教育訓練

消防大学校では、地方公共団体の危機管理・防災担当、国民保護担当者に対する研修課程として、その業務に必要な行政動向等の知識及び能力を習得させることを目的に「危機管理・防災教育科 危機管理・国民保護コース」を実施しています。

令和4年度の危機管理・国民保護コース（第12回）では、学生37名が消防大学校での8日間（4月14日～21日）の全寮制の集合教育を終え、全員が無事に修了しました。

研修では、消防庁幹部による国民保護法制の概要に関する講義をはじめ、専門家による危機管理の初動や応急対応、また過去の災害事案での危機管理体制に関する講義を実施して、危機管理担当者の業務に応じた実践的なカリキュラムで実施し、必要な知識及び能力の習得に努めました。

課題研究では、「地方行政における危機管理」に関する、近年の不安定な国際情勢及び大規模化する自然災害等について、課題を各班で研究し、その結果を発表することで、各自治体が直面している課題解決に向けての活発な意見交換や討議が行われました。

今年度から導入した「危機管理広報・報道対応演習」では、有事の際、地域住民に対する迅速かつ正確な情報を発信するために、その知識や手法を学び、模擬的な報道演習を実施しました。

研修を終えた学生からは、「全国各地から集まった学生と、防災に対する課題や、災害対応等の問題について情報交換する中で、危機管理や国民保護の理解が深まった。」「課題研究やグループワーク等を通じて、様々な意見を聞くことや、先進的な取組みを聞くことができたことなど、受講生にとっては、お互いに有意義な研修であったと思います。」等の意見が多く寄せられました。

今後は、消防大学校で習得した知識を糧としてさらに大きな力を発揮するとともに、共同生活で培った各自治

体のネットワークを活かして、それぞれの地域での更なる活躍が期待されます



国民保護・ケーススタディ



課題研究発表



危機管理広報・報道対応演習

問い合わせ先

消防大学校教務部
TEL: 0422-46-1712